

平成 29 年度 産業動物部会定時総会・講習会の開催

平成 29 年 6 月 30 日(金) コブシティ花園ガレージホールにおいて定時総会、講習会が開催されました。定時総会終了後、講習会が開催され、「県内初の農場 HACCP 認証への支援を通じて」と題し、下越家畜保健衛生所 福留静先生より講演をいただき、続いて「県内初の農場 HACCP 認証への取り組みで得たものは？」と題し、めおとファーム 齋藤栄毅様より講演をいただきました。

『私の酪農経営方針は”腹八分目”なんです。でも今、5～10 年後の平均日乳量 4.5 kg も、決して夢じゃない気がします。』(一般 30kg) 県下初の「農場 HACCP」認定農場(中央畜産会認定)となった「めおとファーム」(新発田)の若き(33 歳)経営者、齋藤栄毅氏に、講習会に参加した多くの会員・関係者に強いインパクトを受けました。

『一時、第四胃変位(消化器病の一つ)が連続した時は落ち込みましたが、今では産後の疾病はほとんどなく、繁殖障害での淘汰牛も半年ほどありません。労働時間も 1 日 5 時間で”八分目”主義です。』

この 3 年間、春の農場 HACCP 認証取得を目指し、①衛生方針・目標と実行検証チーム結成、②あらゆる原材料・農場作業の記述、③リスク管理点の実行計画と検証改善システムの構築等を支援してきた、中越家保の福留静氏は、『認定までの作成書類は多く苦心しましたが、何よりも農場の見える化とチーム化が、他方面の関係者の力を結集させ、全業者での情報共有と教育システム、そしてレベルアップの仕組みが整ったことに、経営者は満足されているようです。』

現在、労働力は 2 組の新旧夫婦、搾乳牛数は 65 頭、平均日乳量 3.4 kg、体細胞数はなんと 8 万。農場 HACCP 認証に加え、独学での高い飼養管理知識と、著名な「ノーコ・ファーム」に影響を受けたとする明確な経営指針にも驚かされましたが、厳しい酪農時代への「頼もしい光」を感じた講習会でした。飛入で全農の新育種学講座も。

総会では役員改選もあり、部長・副部長は留任でしたが、家保からの新委員が増加し、より開かれた会への志向を目指します。当部会は、地域畜産業に貢献し、以って動物蛋白の安定生産を守る社会的責務の為、これまでのベンチマーキング(経営比較分析)や農場 HACCP 支援、そして会員相互力活用の為の会員情報アンケートも含め、柔軟な活動を目指す方針となりました。部会未所属の家保等の若き獣医師の加入を強く歓迎致します。



講演される めおとファーム 齋藤氏



受講風景